

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
260	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Amount and frequency of alcohol consumption and all-cause mortality in a Japanese population: the JMS Cohort Study. アルコール消費頻度と日本人における総死亡 : the JMS Cohort Study.	
執筆者	
Sadakane A, Gotoh T, Ishikawa S, Nakamura Y, Kayaba K; Jichi Medical School (JMS) Cohort Study Group.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Epidemiol. 2009;19(3):107-15	
キーワード	
アルコール摂取頻度、アルコール摂取量、総死亡率	
<b>要 旨</b>	
<b>背景 :</b> 少量から適量アルコール飲酒者では死亡率が低いことが報告されている。アルコール消費量の頻度と総死亡について日本人において検討した。	
<b>方法 :</b> 1992年から1995年までにベースライン調査が完了した男性3444名、女性5490名の合わせて8934名の日本人の前向きコホート調査を行った。人口動態統計を用いて死因と死亡日を確定した。Cox 比例ハザードモデルを用いてアルコール消費量と総死亡のリスクについて交絡要因を調整して解析した。	
<b>結果 :</b> 397名の男性と240名の女性の合わせて637名の死亡を12年間の平均追跡期間の間に確認した。男性においては非飲酒者と比較して、相対リスクは過去飲酒者では高く(ハザード比 1.18)、少量あるいは適量飲酒者(ハザード比 0.95 と 0.91)では低く、大量飲酒者では有意に高かった(ハザード比 1.67、95%信頼区間 1.10-2.55)。女性においては少量、適量、多量飲酒者は現在飲酒者に分類した。相対リスクは現在飲酒者でわずかに高かった(ハザード比 1.23)が過去飲酒者ではハザード比はほとんど1に近かった(ハザード比 0.97)。層別解析では大量飲酒者は、男性の喫煙者と若い男性でその危険度が高かった。頻度については飲酒量にかかわらず、機会飲酒が最も死亡リスクが高かった(ハザード比 1.28)。	
<b>結論 :</b> 男性ではアルコール消費と死亡率は J カーブを示した。アルコール消費の量及び頻度はともに総死亡率と関連を示した。	